海外癌医療情報リファレンス *by JAMT*
NEWS LETTER

JAMT
Japan Association of Medical Translation for Cancer
日本癌医療翻訳アソシエイツ
http://jamt-cancer.org/

2014.4 – 2015.3 vol.6

一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ　〒160-0022　東京都新宿区新宿2-15-22　S2ビル8F　http://jamt-cancer.org　TEL 03-3356-5710　FAX 03-5367-6032

『海外癌医療情報リファレンス』開設10周年を迎えました

【東京国際フォーラム（イベント会場）】

10 周年記念イベント【東京会場】

【九州会場】

【関西会場】

ーvol.6の紹介ー

1. ごあいさつ …… P1
2. 理事長から …… P2
3. 『海外癌医療情報リファレンス』10年の主な歩み …… P2
4. 2014年活動報告 …… P3
5. 『海外癌医療情報リファレンス』10周年記念 がん医療セミナー … P4
6. 『海外癌医療情報リファレンス』10周年記念 祝賀懇親会 …… P5
7. 『海外癌医療情報リファレンス』がん医療セミナー・懇親会（関西） P6
8. 『海外癌医療情報リファレンス』がん医療セミナー・懇親会（九州） P6
9. がんセミナー …… P7
10. 字幕翻訳勉強会 …… P7
11. 監修者から …… P8
12. 翻訳者から …… P10
13. スタッフから …… P11
14. 事務局からのお知らせ …… P12
15. 組織概要 …… P12
16. 協賛企業 …… P12

1. ごあいさつ

2014年10月5日『海外癌医療情報リファレンス』は10周年を迎えました。

この日を迎えられましたのも、皆様のご協力あってのことと心より感謝申し上げます。今後より一層私たちの活動理念に基づき、信頼できる発信源からの医療情報を、読みやすく質の高い日本語で一般向けに無償公開することで、誰もが高度専門医療情報を手に入れられる機会を広げてまいります。これからも上質なエビデンス情報の蓄積と「必要とする患者さんに必要ながん情報を届ける」という活動を継続していく所存です。

今後とも変わらぬご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ

2.理事長から

一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ
理事長　久保田　馨

『海外癌医療情報リファレンス』開設から10年が過ぎ、がん診療は大きく変わりつつあります。がんの遺伝子情報に基づく個別化が日常診療になり、さらに選択性の高い薬剤の開発が続いています。またこれまで有効性が認められなかった免疫療法の領域で明らかな患者利益が示されています。一方、ほとんどの患者に正しい病名が説明されるようになり、正しいがん情報を求める患者の声は切実です。JAMTの活動は今後ますます重要になってくると考えます。JAMTを支えていただいている皆様に感謝申し上げると共に今後のご協力をこころからお願い申し上げます。

3.『海外癌医療情報リファレンス』10年の主な歩み

年号	沿革
2004年（平成16年）	10月5日　患者遺族である野中希氏により個人のHPとして『海外癌医療情報リファレンス』開設。
2006年（平成17年）	サイトリニューアル。NCIキャンサーブレティン翻訳開始。 6月　がん対策基本法成立。 10月　国立がん研究センター「がん対策情報センター」設立。
2008年（平成20年）	7月　『海外癌医療情報リファレンス』西日本在住者第１回交流会開催（大阪）。この後、活動拠点を東京へ移す。 この頃にはボランティア翻訳者90名、監修者20名に達していた。
2009年（平成21年）	4月1日　任意団体「がん翻訳ネットワーク」から法人化し、現在の一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ（東京）となる。 初代理事：林 正樹（社会医療法人敬愛会中頭病院／理事長）、野中 希（副理事長）、榎本 裕、久保田 馨、島村 義樹、平 栄、古瀬 清之
2010年（平成22年）	5月　JAMTウェブサイトを新たに構築。 NCI動画字幕版を初めて制作（動画一覧）。 NCI「再発したとき」初の冊子制作（がん患者団体支援機構助成金）。 11月　『海外癌医療情報リファレンス』ニュースレター第1号発行。 東京都千代田区にオフィスを開設。翌年、新宿区へ移転。
2011年（平成23年）	3月　震災直後、チーム・オンコロジー.Comへの翻訳協力。 『災害時のがん医療ーがん患者さんと医療従事者のためのFAQ』 原文は、米国がん協会（American Cancer Society）「Coping With Cancer After a Natural Disaster: Frequently Asked Questions for Cancer Patients and Their Caregivers」 5月　サイトリニューアル　制作（株）かるてぽすと 6月　副理事長野中が米国NCIを訪問。 小宮医師とともにスタッフと会合。
2012年（平成24年）	NCI「がん治療後の生活」冊子制作。
2013年（平成25年）	1月　NCIキャンサーブレティン原文元発行終了 4月　新理事長に久保田馨氏（日本医科大学付属病院）が就任。 MDアンダーソンがんセンター『Oncolog』誌翻訳開始
2014年（平成26年）	10月5日　『海外癌医療情報リファレンス』ボランティア翻訳者110名、監修者42名、スタッフ、会員、協賛・協力者に支えられ、がんの最新情報をほとんど毎日更新し続け、10周年を迎える。

2011年6月10日日米国国立癌研究所(NCI)にて。
野中希(左)、NCI小宮武文医師(左から2番目)。(NCIキャンサーブレティン掲載)

4.2014 年度活動報告

4月

「海外癌医療情報リファレンス」トップページが一部リニューアル

- ●新着は全カテゴリーから表示
- ●上部メニューには、「発信元で探す」「種類で探す（がん種別）」「内容で探す（治療法など）」があり、マウスオーバーで全メニュー表示
- ●カテゴリー別に色分け、各カテゴリークリックにより過去記事表示
- ●「NCI日本版」ページ、各記事右欄に『NCI新着記事』表示

6月

14日　がんセミナー
科学的根拠に基づくがん検診
講師：齋藤 博先生（国立がん研究センター　がん予防・検診研究センター　検診研究部部長）
ファシリテーター　寺田真由美　（字幕指導）

7月

3日　がん臨床試験冊子作成（ジョンソン・エンド・ジョンソン助成金活動）第２回東京ミーティング

9月

6日　字幕翻訳勉強会　講師：瀧ノ島ルナ先生

「医療翻訳・入門講座」を開講（9月〜12月）　講師：今泉眞希子

10月

5日　『海外癌医療情報リファレンス』開設10周年

8日　ラジオNIKKEI「井手口直子のメディカルカフェ」提供：テバ製薬株式会社
http://www.radionikkei.jp/yakuzaishi-go/ **に野中希 副理事長出演**
テーマ／ 医療翻訳の重要性(１)

12月

21日　『海外癌医療情報リファレンス』開設10周年記念　がん医療セミナー・祝賀懇親会
「翻訳者・メディカルライターに知ってほしい医薬品開発の知識」
講師：辻村 信一（メディカルライター／メディア総研株式会社）
「がんとゲノム・遺伝子：ドライバー変異とその阻害剤から
新しい作用機序の抗PD(L)-1抗体を中心とした免疫療法の新展開」
講師：田中 文啓（九州産業医科大学第2外科）
「日本のがん医療事情について〜がん研究の死の谷と情報リテラシー〜」
講師：勝俣 範之（日本医科大学武蔵小杉病院　腫瘍内科）
「21世紀のがん医療―この10年の歩み」
講師：久保田 馨（日本医科大学付属病院　化学療法科）

1月

「医療翻訳・入門講座」（1月〜4月）

18日　『海外癌医療情報リファレンス』開設10周年記念がん医療セミナー（関西）
「総合診療で語るがん診療の未来像」
講師：東光久先生（天理よろず相談所病院）
「21世紀のがん医療―この10年の歩み」
講師：久保田 馨（日本医科大学付属病院　化学療法科）

2月

1日　『海外癌医療情報リファレンス』開設10周年記念がん医療セミナー（九州）
「がんとゲノム・遺伝子：ドライバー変異とその阻害剤から
新しい作用機序の抗PD(L)-1抗体を中心とした免疫療法の新展開」
講師：田中 文啓（九州産業医科大学第2外科）

★『海外癌医療情報リファレンス』ボランティアサイトでのがんの情報提供
ほぼ毎日更新しました。主な翻訳情報　● 米国国立癌研究所（NCI）　-NCIニュース、臨床試験結果、ファクトシート、薬剤情報（A-Z）、● FDAニュース　-新薬承認と安全性報告、● 学会ニュース　- 米国臨床腫瘍学会（ASCO）、欧州臨床腫瘍学会（ESMO）、米国癌学会（AACR）プレスリリース、● 大学/ 施設ニュース（MD アンダーソンがんセンター、ジョンズホプキンス、メイヨークリニック、スローンケタリング、ダナファーバーがん研究所、など。● 米テキサス大学MD アンダーソンがんセンター専門家向け月刊ニュースレター「Oncolog」、● 英国医療サービス（NHS）、● キャンサーコンサルタンツニュース、

★JAMT翻訳の主な掲載、提供先（順不同）
- ● ヘルスデーニュースの要約提供/PubMed要約提供
- ● 厚労省『「統合医療」に係る情報発信等推進事業』（帝京大学 大野智先生主導）翻訳（1月〜3月）
- ● フェローアカデミー、アメリアの定例トライアル審査・講評提供（2回）
- ● 月刊「がんサポート」（エビデンス社）最新がんトピックス海外版
- ● キャンサーネットジャパン季刊誌「海外がん医療TOPICS」掲載
- ● （株）リンクスタッフ「Doctor's Gate」（http://drsgate.com/）に記事リンク掲載
- ● 筑波大がんプロ　がん看護シンポジウムにて逐次通訳

5.『海外癌医療情報リファレンス』10周年記念 がん医療セミナー

日時：12月21日　13：00～17:00　会場：東京国際フォーラム会議室ガラス棟404号室
セミナーは辻村先生、田中文啓先生、勝俣先生、久保田理事長からご講義いただきました。12月早々に定員を超える反響をいただき、一般のがん患者さんも含む65名の参加者でした。字幕指導の寺田さんに進行を頂き、おかげさまで大盛況に終わりました。

1.翻訳者/メディカルライターに知ってほしい医薬品開発知識

（開発段階から承認までのドキュメントのポジショニング）
辻村　信一　先生（メディア総合研究所）

1 新規医薬品開発の流れ
　・前臨床試験と治験
2 治験での文書などの位置づけ
　・臨床開発中に発生するドキュメント
3 治験薬概要書、治験実施計画書、治験届・照会文書、治験総括報告書、製造販売承認申請、その他
　・使用する科学水準
　・持続的教育検収の必要性
4 ＱＣ点検について

2.がんとゲノム・遺伝子
―ドライバー変異阻害剤と新しい作用機序の免疫療法―

田中　文啓　先生
（学校法人産業医科大学医学部第2外科教授）

1 がんとは何か？
　・がん＝腫瘍（自律性増殖）＋悪性（侵純・転移）
2 がんとゲノム・遺伝子
　・がんはなぜ発生するのか？
　・ゲノム（genome）とは何か？
　・主なドライバー変異と阻害薬
　・チロシン・キナーゼとは何か？
　・EGFR遺伝子変異とがん化
3細胞性免疫とチェックポイント
　・がん細胞の免疫回避（逃避）
　・PD-1・PD-L1阻害による免疫療法

3.日本のがん医療事情
～がん研究の死の谷と情報リテラシー～

勝俣　範之　先生
（日本医科大学武蔵小杉病院　腫瘍内科）

1 日本のがん研究の問題点
　・がん研究の死の谷とは？
　・抗がん剤　ドラッグ・ラグの現状
　・各国における治験に占める国際共同治験の割合
　・臨床試験の数―米国との比較
　・未承認薬～開発から承認まで
　・日本の臨床試験の問題点
2 情報リテラシーの問題
　・がん治療～世界の常識と日本の非常識
　・誤った検診のすすめ!?
　・氾濫するがん情報
　・インターネットがん情報の危うさ

3 腫瘍内科医不足の問題
　・がん薬物療法（腫瘍内科）専門医数
　・日本の腫瘍内科医は極めて少ない
　ー腫瘍内科医は極めて少ないー

4.21世紀のがん医療：この10年の歩み

久保田　馨　先生
（日本医科大学付属病院　化学療法科）

1 橋渡し研究（トランスレーショナル・リサーチ）
　・非臨床と臨床の橋渡し
2 喫煙とがんの関連性
　・喫煙率上昇に伴い、20-30年後に肺癌罹患率も上昇
　・タバコに含まれる有害物質
　・喫煙と死因、認知症、老化
3 その他の原因とがんの関連性
4 がんと個別医療
5 がんと骨転移
6 がん治療とQOL
　・治療中の生もの摂取制限への疑問
　・口腔衛生の重要性
　・コミュニケーション
7 WHOの健康定義に対する、より理解しやすい和訳の提案

6.『海外癌医療情報リファレンス』開設10周年記念 祝賀懇親会

日時：12月21日（日）17:00～19:00
会場：東京国際フォーラムガラス棟６０２会議室

がん医療セミナー後、会場を変え、祝賀懇親会が開催されました。理事長をはじめ役員のご紹介、発起人である野中副理事長の挨拶、そして監修の先生方、ボランティア翻訳者の方からご賛同や生の声を聞くことができました。

翻訳者、監修者、役員ほか、来賓としてジャパン・フォー・リブストリング（JPSL）や、協賛企業の方々含め、総勢38名が参加しました。

パーティのあいだにはNCI 動画字幕版もバックのスクリーンに流れ、来賓も交えて、皆様のご支援と団結をあらためて感謝し、JAMTのミッションや方向性を再認識できました。また翻訳者の方々と監修者・役員が直接お話でき、貴重な交流の機会となりました。

さまざまな先生方に急遽役割をお願いする場面もあり、クイズの時間には６チームに分かれて難問に挑戦し、普段見られない一面を見ることができました。クイズ原案は翻訳者の宮武さんが協力。意外な難問に会場が湧きました。

少数の有志で始めました、海外の医療情報を翻訳して日本の皆様に提供するという活動が、多くの方のご協力をいただいてこのように広がってきたことは素晴らしいことと思います。情報を受け取るだけでなく、発信する立場にもなることができるのは、他にはなかなかない事です。JAMTはまだまだ必要とされる存在であると思います。
今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

（初代理事長　林　正樹）

野中　希
【副理事長／運営管理担当責任者】

平素より『海外癌医療情報リファレンス』に日夜ご協力賜りありがとうございます。本日は年の瀬で公私ともにご多用な中、ウェブサイト創設10周年の祝賀懇親会にご列席いただき御礼申し上げます。2014年10月5日に10周年の佳節を迎えられたことはひとえに皆様のおかげと感謝しています。

6年半前に初めて翻訳協力者が関西で集合したとき―私の東京への送別会になった初めての会でがんセミナーのもとになったものでした―の写真入り色紙をふとあらためて見て、とても懐かしく、役員にも事務局にも無理を言い10周年イベントが実現しました。10周年企画やご挨拶、ラジオなどでもお話をさせていただいたりするにつれ、私自身も立ち上げ時から現在に至るまでを感慨深く思い出すとともに、この10年で達成してきたことや当サイトの位置づけ、今後の方向性など俯瞰的に顧みる機会を得たように思います。

すでにいろいろなところで申し述べましたが、このウェブサイトを立ち上げた10年前は、主治医から以外には日本ではがんの情報もほとんどなく、相談できる患者会もピアサポートもありませんでした。セカンドオピニオンがなんとか可能であったくらいでした。末期がんで診断された主人の弟に1週間でも長く生きてほしいと、途方に暮れながらも必死になって治療を探しました。末期の小腸癌でみつかった義弟は半年で亡くなりましたが、当時は混沌とした日本のがん診療の状況に『がん難民』という言葉が生まれた頃で、私自身もとても納得のいく闘病ではありませんでした。「患者も情報がほしいんだ」という心の叫びに共感くださった翻訳者や医療者が集い、開設したサイトでした。そんな当時出会ったのが、初代理事長の林正樹先生はじめとして、平先生や島村さん、本日大阪からかけつけてくださった監事の久賀田さん、そして当時ボストンに留学中でいらした榎本先生であり、ポツリポツリと集まってくださった翻訳協力者の方々とともに懸命に翻訳をしました。またその後、古瀬清行先生との出会いもあり、現理事長の久保田先生とのご縁をいただきました。皆さんとの出会いは本当に幸運なことでした。

お手伝いくださる翻訳者仲間も一人、一人と増えていきました。古くから関わってくださった方々、初めて参加いただいた方々、またここに来られない全国および海外にお住まいの協力者の方々がお手伝いくださっているからこそ、私たちは励まされ継続することができました。一部の方から「私も来年JAMT協力10年になります」という言葉を聞いて感無量です。紆余曲折ありながらも2009年には、林正樹理事長を筆頭として一般社団法人化の運びとなりました。

多くの困難や障壁がありましたし、今もどうすれば協力者のみなさんに最善であるか模索しながら運営していますが、この10年のがん医療の変遷を目の当たりにできたこと、多くの支援や同志を得られたことは最高の幸せと感じています。

『情報はがん患者にとって希望なんや』という言葉を、「第1回患者大集会」を実現し、「医師主導の治験」制度を命懸けで実現された故三浦捷一先生がくださいました。大阪にいた頃、三浦先生は患者活動の大きな柱であり後姿を見ながら共に闘ってきました。また今日お越しのジャパン・フォー・LiveSTRONGのBinzeeは、' Knowledge is power' といつもメールに書いてくれます。そしてある肺癌サバイバーさんに『情報は命です』という言葉をいただきました。

社会的にも癌を取り巻く環境が10年前とは大きく変わり、情報が氾濫している日本の現状ではありますが、『海外癌医療情報リファレンス』は、言語の障壁を少しでも取り除くべく、これからも上質なエビデンス情報の蓄積と、患者参加型医療のための医療リテラシーの向上に向け、「必要とする患者さんに必要ながん情報を届ける」活動を継続していければと願っています。今後とも、時代に即したミッションに向けて、がん情報を提供していけるよう、引き続き皆様のご鞭撻とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、JAMT設立時の理事でもありました古瀬清行先生、JAMT初代監事であった宇佐美みふゆさん（VOL-net、HP「私の庭☆がんと暮らして☆In My Garden」）、日本で初のリレーフォーライフを実現された翻訳会員の葉っぱさん、薬学の監修者jobimさん、昨年1名、本年1名の翻訳者が乳癌で旅立たれました。ご家族を亡くされた方々も多くいらっしゃいます。ここに、貴重なご協力をいただいたことをあらためて深謝し、ご冥福をお祈りします。

7.『海外癌医療情報リファレンス』開設10 周年記念 がん医療セミナー・懇親会（関西）

日時：1月18日（日） 11:00〜14:00
会場：パーティーパーク

幹事　寺田真由美（字幕指導）

JAMT10 周年記念セミナー＆懇親会@関西を大阪北新地で開催いたしました。東京から久保田理事長が参加したほか、関西在住翻訳者・監修者、また東京からゲスト参加もあり総勢15名となりました。参加３時間がアッという間でしたが、和やかな雰囲気のなか、交流を深めることができました。

セミナーでは、久保田馨先生からは肺癌治療を軸に、この10年のがん医療についてマクロ（疫学）、ミクロ（治療薬）、人の３つの切り口でご講演いただきました。

東光久先生からは、部位ごとの専門化が進んだがん診療において、総合診療的なスタンスが果たしうる役割、「ジェネシャリスト」（generalist と specialist を合わせた造語）的医療者の必要性についてお話いただきました。

参加者は、講師のお二人を入れて全部で15人。

東京で開かれた懇親会でも感じましたが、皆さんがさまざまな立場、興味、想いからJAMTの活動に参加されていることが分かり、立場を超えてより良いがん医療のために集えるJAMTという場がとても貴重に思われました。

ムリのないかたちで、今後も勉強会やセミナーを継続していけないものか、さまざまな意見・提案も出ました。今後、皆さんと相談しながら進めてまいりますので、今回参加がかなわなかった皆さんも、またの機会にぜひお目にかかれたらと思います。

8.『海外癌医療情報リファレンス』開設10周年記念 がん医療セミナー・懇親会（九州）

日時：2月1日（日）15:00〜19:00
会場：アクロス福岡セミナー室１

九州初の集まりが2月1日に実現しました。セミナーは、12月に東京で行われた田中文啓先生の「がんとゲノム・遺伝子」。東京より野中副理事長が参加しました。北九州、佐賀、熊本などから福岡、天神に6名が集合し、温かく楽しい初会合の開催となりました。

参加者　鶴田京子（SNS担当）

癌の基礎から最新の免疫療法まで、とてもわかりやすいご講演だったと思います。

特にドライバー変異などは、言葉として認識はしていたのですが、実際のところ、ネットや本の文字情報ではイメージをつかみづらく、どのようなものなのか、どんな作用をするのかまではわかっていませんでした。しかし、今回の講演でドライバー変異を車のドライバーに例えていただいたりして、今まで漠然としていたものが、段々と具体的に理解できるようになったと思います。

これは、ゲノムと遺伝子の話や、免疫療法にも同じことが言えます。単語だけ知っていた言葉が、段々とその内容具体的に見えてきて、今後もっと勉強に励もうという気持ちになりました。ありがとうございます。

9. がんセミナー

科学的根拠に基づくがん検診

日時：6月14日　13:00〜15:00
会場：JAMTオフィス
講　師：齋藤 博先生（国立がん研究センター
がん予防・検診研究センター　検診研究部部長）
ファシリテーター：寺田真由美（字幕指導）

国立がん研究センターの斎藤 博先生に、がん検診についてご講義頂きました。

早期発見に役立つがん検診は大変重要な２次予防です。しかし、多くの人が対象の対策型がん検診では、その有効性の基準である「死亡率を下げる」だけでなく、検査や過剰診断などの不利益も考慮する必要があります。科学的根拠に基づくがん検診とはなにか、どの検診をどの頻度で受ければいいのか、医学的観点からご講義頂きました。

科学的根拠に基づくがん検診
―受診者のためになるがん検診とは―

・新しい検診法の評価プロセス（感度・特異度）
・スクリーン感度とプログラム感度
・がんの自然史とリード・タイム、レンクス・バイアス、過剰診断がん
・精度管理－がん検診マネジメント
・わが国で精度管理ができていない要因
　－スクリーニングの定義に関する誤解
抜粋
・がん検診の目的：当該がんの死亡率減少
・正しいがん検診（組織型検診）の実施
・がん検診とがん診断（診療）の違い
・推奨できる検診をどうやって判断するか?
　メリット（有効性の科学的根拠）がある
　がん検診には必ず不利益（デメリット）があり、不利益が利益より十分小さいこと

参考:科学的根拠に基づくがん検診推進のページ
http://canscreen.ncc.go.jp/index.html

10. 字幕翻訳勉強会

日時：9月6日開催 13:30〜15:30
会場：JAMTオフィス
講師：瀧ノ島ルナ先生
題材「知っていますか？：子宮頸がん／米国国立癌研究所（NCI）」

各自パソコンを持参し、題材の字幕翻訳課題も提出しての勉強会となりました。ほとんどが初めて受講される方ばかりでしたが、ソフトの扱い、字幕の訳し方など皆さんの課題を例に実際の課題で一つ一つご指摘いただき、参加の方からはとてもわかりやすかったという声をいただきました。

参加者　宮武洋子

9 月初旬に、JAMT で開催された滝ノ島ルナ先生の字幕翻訳セミナーに参加させていただきました。字幕翻訳には以前から興味がありましたので、本当にありがたい機会となりました。

セミナーでは各自のパソコンを持参し、様々なルールを一から学びました。専用ソフトをダウンロードするところから始まり、動画や課題の訳文ファイルの取り込み、動画上での字幕の表示方法なども習得しました。

そして予想通り、字幕作制のプロセスには全く別の面白さや難しさがありました。例えば、字幕は見る人が負担なく読めるように、もとの文の3〜4 割程度まで凝縮する必要があります。1秒4文字のルールもその一つです。意訳とも言えるかもしれません。意味を網羅する簡潔な字幕にするには、関連知識や、多少の勇気もまた大切です。通常の翻訳とは違いスクリーンの切り替わりもありますので、前後のつながりを考慮し、一枚の字幕としても自然な日本語にするのは案外難しい点でした。しかし、そのプロセスこそがやりがいの部分とも言えます。

セミナー参加の数ヶ月後、JAMT 事務局から実際の字幕翻訳の機会をいただきました。文字起こしされた英文原稿に初めて自分で箱切り（字幕一枚の区切り）をしたのですが、これは納期ぎりぎりまで難航しました。その後、映像の先生のチェックと事務局からのスポッテング（字幕のINとOUTの時間表示）原稿を待ち、翻訳に入りました。制限文字数内に収めるのはとても無理と思える場面もありましたが、映像や音声も翻訳を補完するということを念頭に何とか仕上げ、今は監修をしていただいている段階です。

翻訳には長く携わってきましたが、字幕について学び、実際に一連の作制プロセスを経験できたことは2014 年における一つの大きな進歩でした。今後とも学んだことを振り返り、字幕作制で直面した課題も自分なりに解決しながらよい訳文をご提供できるよう取り組んでゆきたいと思います。

11. 監修者から

Congratulations for the 10 year benchmark of JAMT.

上野直人 M.D., Ph.D., F.A.C.P. Professor of Medicine
【テキサス州立大学　MD アンダーソンがんセンター　乳腺腫瘍内科部門教授
モーガンウェルチ炎症性乳がん研究プログラムおよびクリニック所長】

A great accomplishment. There are many interesting and high quality information that needs to reach the patients and their families. However, because of the language barrier, this is not always possible.

JAMT provides the bridge between the world of English-oriented medical world and Japanese Medical Community. Further, it fills the gap of "'lost in translation" by many medical experts and high quality translator involved in the process of creating this bridge. This bridge results in the improvement and the quality of medical information that patient' s can be exposed. How fortunate that JAMT exist. Congratulations again.

（左：原野先生）（右：上野先生）

MDアンダーソンがんセンター 乳腺腫瘍内科での臨床研究留学

原野謙一 Postdoctoral fellow, Naoto T Ueno laboratory, Department of Breast Medical OncologyMD Anderson Cancer Center
【日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科】

私は、日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科の原野謙一と申します。2014年8月より、テキサス州ヒューストンにあるMDアンダーソンがんセンター乳腺腫瘍内科にて臨床研究留学をしております。

ヒューストンに来て半年が経過し、生活にはすっかり慣れました。夏は40℃を超える灼熱の地のため、さぞ冬は暖かいだろうとタカをくくっていたら、朝晩は0℃まで下がり、東京と同様の気候であり、思ったような理想郷はないのだと思っているところです。

私は上野直人教授のもとで、ポスドクとして臨床研究を行っております。私は以前より日本で乳腺、婦人科領域の臨床研究を行っていたのですが、早期臨床開発に関するトレーニングを受けたかったこと、またアメリカにおける臨床研究を経験することで、今後の日本における臨床研究の発展に寄与できるものが学べるのではないかと考え、留学を決意しました。

当ラボは、基礎研究チームと臨床研究チーム双方のラボを構える、比較的大規模なチームです。トランスレーショナル研究が盛んに行われております。具体的には、基礎研究チームがある分子標的薬の臨床前研究を示した際に、その後臨床研究チームでphase 1 studyを立案するなど、基礎研究と臨床研究が盛んにコラボレーションしております。このようなコラボレーションはこれまでの勤務病院でみられなかったので、私個人としては非常に新鮮です。これを体感できただけでも、今回留学をすることが出来てよかったと思っております。私は現在､phase 1臨床試験の立案や、炎症性乳がんやトリプルネガティブ乳癌といった予後不良の乳がんに関する後方視研究を開始しました。さらに、これから様々な研究を開始する予定です。今の環境は自分にとって大変ありがたく、幸せに感じております。

まだ目の前の課題に追われて過ごす毎日で余裕がありませんが、アメリカの文化や交流も楽しみつつ、留学生活を頑張ろうと思っています。

放射線治療分野における医学物理士

中村光宏【京都大学医学部附属病院　放射線治療科　特定講師・博士 (医学)・医学物理士】

がんは日本人の二人に一人が罹り、死因の 1 位となっている文字通りの国民病である。がんの治療法には、手術、化学療法、放射線治療がある。欧米においては、新規がん患者の60%前後に対して放射線治療が施行され、がん治療の3本柱の1つとして確固たる地位を占めている。一方、本邦における放射線治療施行率は30%程度と欧米に比べて大きく立ち後れている。しかし、近年、本邦に

おける放射線治療の役割が急激に増大しており、2015年には36万人の患者が放射線治療を受けると推定されている。その背景には、高齢化社会の急速な到来、切らずに治す放射線治療への期待、IT・画像技術等による放射線治療の高度化が挙げられる。

昨今の放射線照射技術には目覚ましいものがあり、その高度化により治療成績の向上ならびに有害事象の軽減が実現している。その代表的な放射線照射技術が定位放射線治療や強度変調放射線治療、四次元放射線治療である。これらの放射線照射技術を臨床適用するためには、ハイテク化された放射線治療装置や高度な放射線治療計画装置を使いこなし、複雑化した放射線治療の工程にも対応しなければならない。また、安全かつ高度な高精度放射線治療の提供および恒久的な精度管理のためには、放射線治療の精度管理、品質向上、放射線治療計画という基盤的な医学物理学的支援を行う必要がある。これらに対応するために、『医学物理士』が必要というコンセンサスが確立している。『医学物理士』の業務は(1)放射線治療計画における体内線量分布の最適化・評価、(2)放射線治療装置・関連機器の受け入れ試験・コミッショニングの計画・実施・評価、(3)放射線治療装置・関連機器の品質管理・保証の計画・実施・評価、(4)放射線治療精度の検証・評価、(5)放射線治療の発展に貢献する研究開発、と多岐に渡る。

上記(5)に関して、我々は先端医療センターおよび三菱重工業と共同で動体追尾照射法が可能な放射線治療装置Vero4DRTを開発した。動体追尾照射法とは、標的の呼吸性移動に応じて自動的に照射位置を調整しながら連続的に照射を行う方法である。その特性から、患者に息止めを要求せず、照射時間の延長を伴うことなく、標的に限局した照射が可能である。2011年9月に肺がんに対してリアルタイムモニタリング下における動体追尾放射線治療を世界で初めて成功させた。その後、難治がんである肝臓がんおよび膵臓がんにも適応を拡大しており、その有用性を証明している最中である。

2007年の冬。当時、何の実績も持たない博士課程の大学院生であった私が、日本では立ち後れていた放射線治療ならびに医学物理士の存在を社会や国民にいかに発信できるかを自分なりに考えていた。そこで目に留まったのが『海外癌医療情報リファレンス』の監修者の活動である。監修者の立場であるため自己主張することは難しいが、行間に『放射線治療でも根治が可能である』、『日本の放射線治療の背景には、欧米と同じように医学物理士が活動する』という思いは込められるだろう、という結論に至った。近い将来、我々の活動が『海外癌医療情報リファレンス』に取り上げられ、難治がんでも良好な治療成績を得られる、という自己主張を報告できる日が来ることを願ってやまない。

General Oncologistになる！

－総合診療とがん診療の架け橋となるために－

東　光久【天理よろづ相談所病院総合内科】

総合診療医を軸足にがん診療とリウマチ膠原病診療に携わり、早15年以上が経過した。その間、分子標的治療が日常臨床に導入され、多くのがん種で治療成績が向上した、とされる。しかし、私達医療者は本当に人々のwell-being(時幸福・健康)に貢献しているのだろうか。治療成績向上＝人々の幸福というのは少々短絡的ではないか。幸福の定義やその尺度をどう設定するかは難しい問題ではあるが、少なくとも治療成績向上はその一部ではあってもすべてではないのは自明である。また、臨床試験で優越性や非劣性が示された新たな標準治療を、すべての患者が享受できる訳ではない。リアルワールドでは臨床試験にエントリーできないような患者の方が多いかもしれない。内的妥当性の高いランダム化比較試験（RCT）結果は、外的妥当性が低いのである。

Evidence-based Medicine(EBM）という用語はかなり浸透してきているが、時にEvidence only-based medicineともいうべき、ランダム化比較試験によるevidenceのみで臨床判断すると言った極端な実臨床を目にする事がある。EBMはevidenceのみならず、患者の価値観、医師の経験も含めて総合的に臨床判断する事であり、そこでは患者の意思決定を支援するshared decision makingという考え方が尊重されるべきである。

また、腫瘍内科、緩和医療を含めどこの領域も専門医不足を託ち、その専門医数を増やすべきだと喧伝するが本当にそうであろうか。団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に移行し、超高齢社会の象徴的な年である2025年まで残り10年の間に、専門医が充足するとはまず考えられない。

解決のためのキーワードは“オーバーラップ”である。各臓器別専門医も総合診療医も自身の専門分野だけでなく、互いの領域に足を踏み入れる勇気と努力が必要である。そして総合診療医でもあり、腫瘍内科医でもある私に課された役割はGeneral Oncologistとなって、互いの立場を理解し尊重しながら患者のwell-beingのため、EBMの実践を通じてよりよい意思決定支援が出来る存在となる事である。

『時代を変えるのはいつもminorityである』と考え、今はまだminorityであっても総合診療医が腫瘍内科領域、緩和医療領域をつなぐ架け橋的存在になれるよう努力していきたい。

12. 翻訳者から

ドリームキャッチャー養成講座『がんアドボケートセミナー』に参加して

河原恭子

4月19日（土）、福岡で開催されたドリームキャッチャー養成講座『がんアドボケートセミナー』に参加いたしました。

MDアンダーソンがんセンターの上野直人教授、順天堂大学大学院の佐瀬一洋教授を講師に迎え、がん患者・患者家族・サバイバーの方々のほか、学生、医療者など45人（翻訳者は私を含め2~3人）が参加し、6時間にわたって行われました。

上野先生と佐瀬先生によるセミナーは大変わかりやすく、お二人のお話に徐々に参加者の緊張もほぐれ、（「恋するフォーチュンクッキー MDA&J-TOP Ver.」も拝見しました）その後グループに分かれて、より良いがん医療のための「マイオンコロジードリーム」プロジェクトを考えました。参加者の意識は大変高く、患者や家族・友人としての意見や要望、医療者の視点など、それぞれの立場や経験に基づいて活発に意見が交わされ、時間が足りないと感じるほどでした。こうして考案されたプロジェクトには、がんに関する知識を広げるための若者向けの「フリーペーパーの配布」、小学生からの教育を通じてがんへの不安や偏見を取り除こうとする「命の教育プロジェクト」などがあり、どのプロジェクトにも「がんに関する偏見をなくし、正しい知識を発信・共有する」という考えが共通しているようでした。

ディスカッションの際、JAMTの活動についてもお話ししたところ、特にパンフレットの翻訳配布には医療関係者の方も含め多くの方が賛同してくださり、自分や家族が罹患した子供のための情報や、国内の情報も加えて提供してほしいなどといったご意見もありました。JAMTでは翻訳をサイトに掲載する作業が多くを占めていますが、そういった情報を必要とされている方々が多くおられることを実感し、活動の意義とともに責任も強く感じました。

最後になりましたが、このような有意義な時間を過ごす機会を与えていただき、上野先生をはじめ、佐瀬先生、関係者の皆様方に御礼申し上げたいと思います。

10周年記念イベントに参加して

池上紀子

2013年からボランティア翻訳として活動を始めましたが、多くの方と顔を合わせるイベントに参加するのは今回が初めてでした。

まず、セミナーでは、最新の医療現場の話、また将来の展望や課題などの生きた情報を聞くことができました。必ずしも、セミナーと同じテーマの翻訳をする機会があるとは限りませんが、複雑に関連し、スタンダードであった治療法が変化することもある医療の世界において、様々な情報に触れることは予想外の形で翻訳に役立つことがあります。翻訳者として特定分野にとらわれない知識や語彙を増やしていくことは重要なので、今後もこのような機会があれば、ぜひ参加させていただきたいと考えています。

懇親会は、監修の先生と翻訳者のお人柄がわかる楽しい会となりました。とりわけ、一人一人のコメントの時間が印象に残っています。私自身は翻訳の勉強をできる機会を探してJAMTに出会いましたが、医療従事者、癌患者やそのご家族が、それぞれの思いで参加された方々が集まって大きな力となり、活動を支えていること、自分がその一員

「海外癌医療情報リファレンス」10周年記念　翻訳記事アクセスランキング

2014年1月～8月発行の翻訳記事ベスト10

1	アセトアミノフェンの含有量が 325 mg を超える処方配合剤について：FDA 声明―処方および調剤中止の推奨 /FDA 安全性情報
2	がん治療後ケアに関する 3 つのガイドラインを発表／米国臨床腫瘍学会（ASCO）
3	精巧に狙い撃つ新規標的薬 AZD9291 が初期相試験で薬剤耐性肺癌に効果／ダナファーバー癌研究所
4	FDA が進行性メラノーマの治療にトラメチニブ＋ダブラフェニブの併用療法を承認 / FDA ニュース
5	FDA が胃癌の治療にラムシルマブを承認 /FDA ニュース
6	エンザルタミドは転移性前立腺癌患者の生存を改善する／ NCI 臨床試験結果
7	血管新生を知ろう=がんを理解するシリーズ=／ NCI がんトピック
8	OncoLog 2014 年 2 月号◆新アプローチ（免疫チェックポイント／ PD1 標的療法）による進行期メラノーマ治療の画期的な進歩／ MD アンダーソンがんセンター
9	早期乳癌患者に対するセンチネルリンパ節生検のガイドラインを改定―エビデンスが多くの患者に低侵襲診断を適応すべきことを支持／米国臨床腫瘍学会（ASCO）
10	化学療法とホルモン療法の併用で転移性前立腺癌患者の生存が延長／ NCI プレスリリース

2013年1月～12月発行の翻訳記事ベスト10

1	新たな分子標的薬ラムシルマブが進行胃癌の生存期間を延長する／ダナ・ファーバー癌研究所
2	成人癌患者における発熱・好中球減少症の管理に関する新ガイドライン／ ASCO プレスリリース
3	癌患者の終末期ケア /NCI ファクトシート
4	センチネルリンパ節微小転移のみの乳癌女性に対する腋窩リンパ節郭清は不要 /NCI 臨床試験結果
5	FDA が進行肺癌の治療に Gilotrif（アファチニブ）を承認 /FDA ニュース
6	中枢神経系（CNS）原発悪性リンパ腫に対する新たな脳腫瘍治療はより効果的で毒性が低い可能性／カリフォルニア大学サンフランシスコ校
7	選択的エストロゲン受容体モジュレーター（SERMs）により乳癌発生率が低下する可能性 / 英国 NHS Choices
8	進行性 NHL に対するトレアキシンとリツキサンの併用療法は R-CHOP および R-CVP に対し非劣性である
9	抗うつ薬サインバルタは化学療法誘発性末梢神経障害による疼痛を緩和できる
10	FDA がマントル細胞リンパ腫の治療に ibrutinib［イブルチニブ］を承認 /FDA ニュース

でいることを誇らしく感じました。また、翻訳作業は一人で行うことが多く、それも魅力の一つですが、一人で問題を抱え込みがちです。翻訳者にしかわからない話を共有することができたことは、オンラインではない集まりならではの良さでした。

JAMTにお世話になってまだ二年足らずではありますが、今回のイベントでは10年にわたりJAMTを引っ張り、支えてこられた皆様の思いに触れ、今後、医療翻訳を通じてできること、やりたいことを考える機会となりました。次の10年、そして20年とJAMTが活動を広げていく中で、情報があふれ返っている今だからこそ良質な情報を平等に提供できるよう、微力ながら、今後も長く関わらせていただきたいと思っています。

最後になりますが、10周年記念イベントを運営してくださった野中さん始め、事務局の皆様にお礼申し上げます。

13.スタッフから

【MDアンダーソン担当　河原　恭子】
いつもMDA記事の監修・翻訳にご協力いただきありがとうございます。
今年もOncoLogをはじめとして、様々な記事翻訳を掲載することができました。
来年もどうぞよろしくお願いいたします。

【動画担当　山口夏代】
秋の字幕講習会に参加した方々にも、動画翻訳にご協力いただいています。字幕指導、医学監修の先生方、ご指導をいただきありがとうございます。スタッフとしてまだまだ未熟ですが、よりよい動画となるように、できることを増やしていきたいと思っています。

【キャンサーコンサルタンツ担当　山田登志子】
監修の先生方、翻訳者の皆様とのやりとりから学ぶことはとても多く、ありがたく思っています。JAMT役員の皆様、運営スタッフの皆様、「海外癌医療情報リファレンス」10周年おめでとうございます。ますますのご発展をお祈り申し上げます。

【FDAニュース担当　内山佳代子】
FDAニュースを担当しております内山佳代子と申します。JAMTのスタッフとして参加させていただき、スタッフの方をはじめ、翻訳者の方、監修の先生方から多くのことを学ばせていただいております。今後も出来る限りお手伝いできれば幸いです。

【公的機関ニュース担当　並木恵】
こんにちは、並木と申します。微力ながら、裏方としてお手伝いを始めて、もうすぐ1年になります。翻訳者として登録されている方には、可能であれば毎月「課題リスト」をチェックしていただければ幸いです。久しぶりに翻訳してみようという方も大歓迎です。よろしくお願いいたします。

【NCIニュース・臨床試験結果担当　林さやか】
監修の先生方、野中様、スタッフやボランティアの皆様には大変お世話になっております。先生方と翻訳ボランティアの方々の間におりますと学び・気付きの連続で、とてもよい経験をさせていただいております。今後ともよろしくお願い致します。

【その他の大学・がんセンター担当　菅原宣志】
皆様への情報発信の一助としてこれからも頑張ってまいります。

【NCI薬剤情報担当　芝原広子】
お忙しい中、翻訳に時間を割いてくださるボランティアの方々には頭が下がる思いです。皆様への情報発信の一助としてこれからも頑張ってまいります
よろしくお願いします。

【タイトルチェック担当　小泉美樹】
今年度からタイトルチェックを担当しております小泉と申します。JAMTを通じて翻訳者さんや監修の先生方とつながることができて嬉しく思っております。これからも、癌の医療情報を正確に迅速に伝えるために励んでいきます。

【トライアル担当　森島由希】
トライアル部門を担当している森島と申します。さまざまなご経験や専門知識をお持ちの方々が、社会貢献や自身のスキルアップを目指してトライアルに挑戦していらっしゃいます。今年もJAMTメンバーが増えることを願っております。

【NCI出版物・他担当　中島美香】
【NCI薬剤情報担当　松長愛美】
【学会報告記事担当　渉里幸樹　遠藤微子】
【公的機関ニュース及びその他の記事担当　並木恵】
【翻訳者管理担当　白井千恵子】
【広報担当　吉田加奈子】
【メルマガ業務担当　高橋多恵子】
【SNS：Facebook Twitter担当　鶴田京子】

【事務局スタッフ】
運営統括：野中希
事務局：水野恵、川見佐知
会計：水野恵
収益部門翻訳コーディネーター：
鳥居塚千恵
教育部門講師：今泉眞希子

2012年1月～12月発行の翻訳記事ベスト10

1	女性が気をつけたい婦人科癌の 10 の症状 /MD アンダーソンがんセンター
2	タモキシフェン後のエキセメスタン療法により、乳癌再発率が低下し生存期間が延長 / NCI 臨床試験結果
3	ASCO ガイドライン、肥満患者への化学療法剤適正量の計算に実体重使用を推奨／ ASCO プレスリリース
4	抗鬱薬サインバルタが化学療法後の疼痛を和らげる可能性
5	癌の分子標的治療：Q&A/NCI 臨床試験結果
6	小児期の CT スキャンが白血病または脳腫瘍のリスク増加につながることが NIH の研究により判明
7	2012/10/02 号◆特集記事「分子標的薬クリゾチニブは一部の進行肺癌患者に有益」
8	不妊治療薬による乳癌のリスク
9	2012/05/15 号◆特集記事「多発性骨髄腫治療におけるレナリドミドの役割の大きさが複数の研究で裏づけられた」
10	2012/06/12 号◆特別リポート「肺癌などにおける免疫療法の可能性：拡大する適応領域」

2011年6月～12月発行の翻訳記事ベスト10

1	2011/11/01 号◆クローズアップ「癌悪液質の謎に挑む」
2	ニンニクと癌予防 /NCI ファクトシート
3	非小細胞肺癌の臨床試験の結果から：ベバシズマブ / ペメトレキセドによる維持療法は生存期間を改善し、KRAS 遺伝子変異の有無はソラフェニブの治療成績に影響を与えない／ ASCO プレスリリース
4	2011/09/06 号◆スポットライト「共犯者を狙い打つ：腫瘍を助ける免疫細胞を追う」
5	癌の放射線治療：Q&A/NCI ファクトシート
6	FDA が末期皮膚癌に対して Zelboraf（ベムラフェニブ）とコンパニオン診断薬を承認 / FDA ニュース
7	2011/11/15 号「肥満と癌研究」特別号◆肥満と癌リスクをつなぐ機序の解明
8	FDA が最終的なタバコ警告ラベルを公表 /FDA ニュース
9	FDA が一部の後期肺癌に対して Xalkori（クリゾチニブ）とコンパニオン診断薬を承認 /FDA ニュース
10	CML 患者の初回治療に関するボスチニブの評価

14.事務局からのお知らせ

（事務局　Email:office@jamt-cancer.org）

●2014年度（1月～12月）会計報告は、JAMTオフィシャルサイトに3月中に掲載予定です。

●翻訳支援ソフトの会員特典について

プロの翻訳者に好評の翻訳支援ソフト「トラツール」（発売ロゼッタ）をJAMT会員の方は4割引で購入いただけます。ご希望の方は事務局までお知らせください。

●各ワークショップ・セミナー資料、音声、冊子販売について

・医療翻訳ワークショップ（全3回）

＜翻訳者が知っておくべき＞「がんの分子生物学、診断、薬物治療をはじめとした各種治療と臨床試験の知識」～肺がんを中心とした薬物学的アプローチに関する最新知見～田中 文啓先生の講義音声と資料を会員の方のみご購入いただけます。

ご希望の方は事務局までお知らせください。

第1回、第2回、第3回　各2,000円　3回分セット4,800円　（送料込）

・米国国立癌研究所(NCI)ガイドブック

「がん治療後の生活」400円

「再発したとき」　300円

以上の冊子販売をしています。

ご希望の方は事務局までお知らせください。

・販売代金、手数料のお振込先はこちらです。

（会費振込先とは別口座になります）

【振込先】三菱東京UFJ銀行

【支店】仙川支店

【口座番号】普通　0072693

【名義】一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ

シャ）ニホンガンイリョウホンヤクアソシエイツ

●2015年度会費についてのお願い

次年度は2015年4月1日から2016年3月31日となります。会費につきましては2015年3月20日までにお振込みをお願いいたします。（会員資格についてはJAMT ホームページ＜会員登録と寄付＞をご確認ください）

【振込先】ゆうちょ銀行

記号　10030

番号　78505391

一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ

＊退会をご希望の場合は、その旨必ずメールで事務局までご連絡ください。引き続きみなさまのお力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

15.組織概要

名称	一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ
所在地	〒160-0022　東京都新宿区新宿2 - 15 - 22 S2ビル8F
連絡先	office@jamt-cancer.org TEL 03-3356-5710　FAX 03-5367-6032
設立年度	2009年4月1日　一般社団法人　（2004年10月～任意団体）
ボランティア翻訳所属メンバー（2015年2月現在）	翻訳者：120名 監修者：48名

- JAMT オフィシャルサイト　http://jamt-cancer.org/
- 海外癌医療情報リファレンス　http://www.cancerit.jp/
- Twitter アカウント　JAMT：@jamt_cancer　癌リファ：@cancer_ref
- Facebook ページ　JAMT：　jamtforcancer　癌リファ：cancerreference

理事　**理事長**　久保田 馨
医師 / 日本医科大学付属病院化学療法科

副理事長　野中 希
医療翻訳者、医学ライター

理事　榎本 裕
医師 / 三井記念病院泌尿器科

理事　後藤 悌
医師 / 独立行政法人　国立がん研究センター

理事　辻村 信一
メディカルライター（獣医学 / 農学）

理事　林 正樹
医師 / 社会医療法人敬愛会中頭病院　血液腫瘍内科

監事　**監事**　久賀田 郁子　著述業

監事　福原 麻希　医療ジャーナリスト

16.協賛企業

JAMTの運営支援をいただいた企業様に厚く御礼申し上げます。

企業協賛（順不同）

- 日本化薬株式会社
- 大鵬薬品株式会社
- 中外製薬株式会社
- 日本イーライリリー株式会社
- 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
- アストラゼネカ株式会社
- テバ製薬株式会社
- 小野製薬工業株式会社

発行：一般社団法人　日本癌医療翻訳アソシエイツ　Japan Association of Medical Translation for Caner (JAMT)
東京都新宿区新宿２－１５－２２　S2ビル８Ｆ　TEL:03-3356-5710 FAX:03-5367-6032
Email:office@jamt-cancer.org　公式HP:http://jamt-cancer.org/
2015年3月／第6号